

日本は如何にして敗戦を受け入れたのか？
戦争終結は、どのようにして決められたのか？
その真実に迫るドキュメンタリードラマ

日本のいちばん長い夏

8 月公開決定のご案内

平素より大変お世話になっております。

敗戦から 65 年を迎える今夏、「日本のいちばん長い夏」の公開が決定致しました。

日本は如何にして敗戦を受け入れ、戦争終結は、どのようにして決められたのか？

現代を生きる日本人が忘れてはならない「日本のいちばん長い夏」の真実を改めて見つめ、後世に伝えていきたいと考えます。

また、本作はNHKと民間製作会社のコラボ作品＝『国内共同制作』として作られ、これまでの放送・映画という概念を越える新しいビジネスモデルの構築を目指します。

マスコミ試写のご案内を改めてお送りいたしますので、ぜひご高覧いただきますようお願い申し上げます。

●作品概要

太平洋戦争の終結。その舞台裏を明らかにする“大座談会”が、高度経済成長へと邁進しつつあった昭和 38 年、文藝春秋の呼びかけで開かれた。集まったのは、日本を代表する知識人や政治家・官僚を含む 28 人の人々。終戦時、軍部や政府の中枢にいた人、外地で戦争の最前線を体験した人、政治活動から獄中に入れられていた人、一庶民であった人など、様々な立場の人が一堂に会する、前代未聞の“大座談会”となった。

この座談会を実際に司会し、現在は昭和史研究者として知られる半藤一利氏本人の解説インタビューを織り交ぜながら、“大座談会”をドキュメンタリードラマとして再現、改めてその意味を見つめる。

また多くの著名な文化人がこの座談会再現にあたって“俳優”として参加していることが本作の大きな見どころとなっている。実在の人物である座談会出席者を演じる現代の文化人たち。そこに独特のリアリティーが生まれている。

●NHKと民間製作会社のコラボ作品＝『国内共同制作』

「日本のいちばん長い夏」は、NHK(日本放送協会)と(株)アマゾンラテルナの『国内共同制作』によって作られている。NHKが関連会社を通さずに民間の製作会社と直接タッグを組み、制作費を出し合って共同事業として作品を作るのは今回が初めてのケースとなる。優先的に放送権を持つNHKは“番組”として放送。一方、(株)アマゾンラテルナは、“映画”として劇場上映やDVD販売などのマルチ展開を担う。

本格的デジタル時代に入突するなかで、NHKは「3スクリーンズ戦略」を掲げている。つまりテレビ+パソコン(NHKオンデマンド)+モバイル(ワンセグ2)と3つの局面でコンテンツのマルチ展開を積極的に行っている。今回の国内共同制作で、(株)アマゾンラテルナは事業パートナーとしてこのNHKの「3スクリーンズ戦略」をさらに発展させる可能性を探る。シネコンの全国チェーンである(株)ティ・ジョイのグループ会社である(株)アマゾンラテルナは、“4つ目のリアルスクリーン”に「日本のいちばん長い夏」というコンテンツを投入しこれまでの放送・映画という概念を越える新しいビジネスモデルの構築を目指す。

●製作にあたって 監督:倉内均

父の「声」を聞きたいと思った。私は父の戦争体験を知らない。聞かないうちに30年ほど前に父は亡くなっている。ここ数年来、父を考えることが多くなった。父はどんな思いで生きてきたのか、と。

大正生まれの父たちの世代は、戦中はお国のため、戦後は会社のため、会社は日本復興のためと、結局は『日本』のために生きた。戦後の高度経済成長を支えたのも「父たち」だったが、同時に経済価値を至上のものとする価値観を作ったのもかれらだった。家庭を顧みる暇もなく働きつづけた割には報われない世代だったのではないかと思う。

座談会の再現にあたって“文士劇”と決めた。作家、ジャーナリスト、映画監督、評論家、大学教授といった方々が俳優として出演し、「父たち」の言葉を語る。

演技の経験は初めてという人が殆どだったが、圧倒的な存在感を示して見事だった。それはきっと“文士”の方々にも、父の「声」を聞きたいという気持ちがあるからにちがいないと思った。

原作:半藤一利 編「日本のいちばん長い夏」(文春新書) 監督・脚本:倉内均 映画『佐賀のがばいばあちゃん』

出演(登場順):木場勝己 池内万作

湯浅卓(国際弁護士)・中村伊知哉(慶應義塾大学大学院教授)・青島健太(スポーツライター)

山本益博(料理評論家)・松平定知(アナウンサー)・富野由悠季(アニメ映画監督)

林望(作家・日本文学者)・鳥越俊太郎(ジャーナリスト)・立川らく朝(医師・落語家)

島田雅彦(小説家)・田原総一郎(ジャーナリスト)・市川森一(脚本家)・江川達也(漫画家)ほか

製作・著作:NHK アマゾンラテルナ 配給:アマゾンラテルナ 配給協力:ティ・ジョイ

©2010 NHK アマゾンラテルナ <http://www.amalate.co.jp/movie.html>

2010年8月、新宿バルト9ほか全国公開

お問い合わせ 営業:アマゾンラテルナ 銀座オフィス 佐々木(03-3248-8197) 宣伝:PALETTE 境(090-7414-7136)